地域活性化にむけた意見交換を行う
知事と若者の地域創生ミーティングｉｎ白鷹町を開催

1月24日、中央公民館を会場に「知事と若者の地域創生ミーティングｉｎ白鷹町」が開催されました。この事業は、県と町との共催により実施され、地域課題や定住促進、地域の元気創出策など、あすの地域創生を考えることを目的としています。町内の10～40代の若者8名に参加いただき、佐藤町長が進行役を務め、吉村知事との意見交換が行われました。

参加者から、「町には美しい自然や文化、素晴らしい景観など魅力がたくさんあるので、県外はもとより海外にも発信していきたい。」との提言や、子育て世代の参加者からは「白鷹町は子育てしやすい環境がある。もっとPRすることで、人口減少につながるのではないか。」、高校生からは「広報誌だけでなく、若い人の目に留まるSNS等をもっと活用できないか。」などと提言されました。

吉村知事は、「一人一人の活躍する姿が地域の活力となる。町を好きだということを広め、つながりを作りながら町全体を盛り上げて欲しい。」と述べました。

〈白鷹町参加者〉※順不同
・土屋明美さん・梅津響平さん
・石井紀子さん・菅原大夢さん
・樋口美佳さん・片山祥平さん
・佐藤優太さん（荒砥高校）
・松野きららさん（荒砥高校）

多彩な模様で世界に一つだけのハンカチ
紅花総合学習　荒砥小学校で紅花染めを体験

1月29日、荒砥小学校3年生の児童たちは、紅花総合学習の最後の取組である紅花染めを体験しました。

染料には、児童たちが自ら栽培した紅花を使っています。小松織物工房の小松寛幸さん（十王）の指導のもと、木綿のハンカチを手に取り、染め方の準備にかかる児童たち。輪ゴムと割りばしを使い、さまざまな模様をイメージして作業を進め、色素を抽出したオレンジ色の液体にクエン酸水を加え、浸したハンカチが赤く染まると、児童からは歓声が沸き上がりました。最後は冷水で洗い流し、ハンカチを広げると、素敵な模様が浮き上がり、互いに見せあったりしながら、とても嬉しそうな表情を浮かべていました。

自ら育てた紅花が作品として形に残り、世界に一つだけの大切な記念品となりました。

ワクワクの小学校生活！　新入学児童にランドセルを贈呈

ランドセル贈呈式が1月中旬から各小学校で行われました。1月18日は鮎貝小学校で行われ、佐藤町長から、「このランドセルを背負い、元気いっぱいに登校して欲しい。」と激励の挨拶の後、ランドセルが贈られました。ランドセルを受け取った新入学児童代表の大瀧龍音（りおん）くんは、「いっぱい遊んで、運動を頑張りたい。」と、春からの小学校生活に胸を躍らせている様子でした。

この事業は新入学児童の入学を祝いランドセルを贈呈するもので、今年で8年目を迎えました。贈呈されたランドセルは、子どもたちが選んだ色に合わせて、町内のかばん製造業「有限会社らんどーる山形（山口和繁社長）」でひとつひとつ丁寧に作りあげられたものです。

森林・林業・木材産業カウンセラー

■防災・環境保全とリンクする林業振興

白鷹町の山を見たときの印象は、樹木の成長が良く、地形・地質的にも良好なところと感じました。ただし、樹木は樹高が高すぎるため、幹と根とのバランスが悪いので、林業の振興だけでなく、防災の視点からも早期の伐採が必要だと感じました。

山地災害の防止の視点から山の安定を考えると理想の成立本数が1，200本／haとされています。しかし、日本全国の人工林の多くは、木材価格の低迷から手入れされていない密植状態にあり、このような状態では根が張れないため足元が弱くなり、多少の雨や風により災害が誘発される状況となっています。

また、成長した森林の二酸化炭素吸収量が低下し、逆に排出しているということも実証されています。そのため、利用期に達した樹木は主伐し再造林を進めることが地球環境の保全にもつながることになります。

林業の振興と防災、環境はすべてリンクしているんです。

■出口を見据えた戦略

現在の日本の林業は「川下」側、いわゆる「使う」側の視点が少し足りないと感じています。諸外国では、木材を買う人のオーダーにあわせて長期的に安定供給できる体制を構築し造林しています。これまでの長い歴史、背景もありますので一概に悪いとは言えませんが、これからの日本林業は出口を見据えた戦略を立て、長期的な視野で計画的に造林することで、安定供給の確立と土地利用の戦略とその実現が必要なのかと思います。また、これを実現していくための林地の集約化も重要な課題のひとつです。

■科学的林業に

日本は、林業を行うための雨量と気候、土壌、品種すべてに適しており、東アジアの中でも樹木の成長速度は速いです。林地の仕分けを行い、林業を行う山と保全する山の区別を行うことで国際競争に負けない林業を営んでいけるものと思います。

また、これまでの林業は経験や言い伝えによって行われていた暗黙値の林業でした。これからの林業は航空レーザー測量や科学的な裏付けによる根拠のある、形式値（見える）の林業を行っていくことが持続的な産業にしていくポイントになると思います。また、それに向け人材の確保育成を継続的に行っていく必要があります。

■光る林業に

これまで長い歴史の中、林業の振興が地域の生活、活性化への大きな役割を果たしていました。これからも地域を守る、人々の生活を豊かにする一つとして森林・林業が存在すればいいと思います。林業はあくまでも地域の活性化に向けた手段です。先人がさまざまな想いで植え育ててきた樹木を活用して、地域でしかできない林業を磨いて光るものにしていく。そして次世代につないでいけるように今何をしなければいけないのかを白鷹町と一緒に考えて行ければと思います。

たなか　けんじ
田中　賢治 さん

島根県大田市出身　埼玉県川口市在住
国土防災技術㈱取締役事業本部長
技術士（総合技術監理・森林・農業部門）
環境カウンセラー（事業者・市民部門）測量士
島根大学非常勤講師
地元島根県雲南市森林ビジョン策定委員のほか6自治体アドバイザー
日本森林学会、砂防学会、日本緑化工学会、農業農村工学会、地すべり学会　所属

昭和 63 年4月国土防災技術㈱入社。大阪支店他2支店勤務を経て本社勤務。また、独立行政法人国際協力機構（JICA ／ジャイカ）より世界各地の緑化協力を行う。防災、緑化、森林について多数の論文、書籍を発表しているほか、NHK を中心にテレビにも数多く出演。白鷹町とは、農業に関する技術指導が縁で山地災害の防止や林業に対してのアドバイスをいただいている。

【国土防災技術（株）　　所在：東京都千代田区丸の内】

主に山地災害に関する建設コンサルタント、地すべり防止等の防災工事関連建設業を主軸に調査・計画・設計・工事・施工管理を行う防災技術の技術者集団。
主な事業範囲は、①斜面防災、②治山林道、③河川砂防、④地盤、⑤コミュニティ防災、⑥環境緑化など土と緑と水に関する防災全般の業務を行う。

森林（もり）と共に